

令和8年度 進度表

教科	科目	対象学年 コース	単位数	担当者氏名	教科書 著者 発行所	使用教材・発行所	年間授業 予定時数						
理科	物理基礎	2年 理系 物理選 択	2	高橋 富士子	改訂版 物理基礎 河本敏郎ほか12名 数研出版	改訂版リードα 物理基礎・物理 数研出版	86						
指導の重点		1.日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動とさまざまなエネルギーへの関心を高める。 2.目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。 3.物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。											
評価の観点		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">知識・技能</td> <td>物理的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を深く、系統的に理解できる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td>自然の事物・現象について観察を行い、普遍的な法則を見つけることができる。また、その結果に至った思考の経緯を説明することができる。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む態度</td> <td>物理的な事物・現象に対して興味を持ち、目的意識を持って授業や実験、観察に取り組むことができる。</td> </tr> </table>						知識・技能	物理的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を深く、系統的に理解できる。	思考・判断・表現	自然の事物・現象について観察を行い、普遍的な法則を見つけることができる。また、その結果に至った思考の経緯を説明することができる。	主体的に取り組む態度	物理的な事物・現象に対して興味を持ち、目的意識を持って授業や実験、観察に取り組むことができる。
知識・技能	物理的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を深く、系統的に理解できる。												
思考・判断・表現	自然の事物・現象について観察を行い、普遍的な法則を見つけることができる。また、その結果に至った思考の経緯を説明することができる。												
主体的に取り組む態度	物理的な事物・現象に対して興味を持ち、目的意識を持って授業や実験、観察に取り組むことができる。												
学習の評価		1. 定期考査で「思考・判断・表現」、「知識・技能」を評価する。 2. 課題の提出状況や取り組み方で「主体的に学習に取り組む態度」を、授業中の質疑、応答、発表等で「思考・判断・表現」「知識・技能」を評価する。 3. 実験への取り組み方やレポート等で「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」を評価する。 4. 上記の1を中心として、2、3を加味して、総合的に年間の評価を行う。											
学期	月	時数	考査	単元	学習内容	実施							
1	4	41	中間	第1編 運動とエネルギー	第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則								
	5			第3章 仕事と力学的エネルギー									
	6			第1章 熱とエネルギー									
	7			第2編 熱 第3編 波	第1章 波の性質 第2章 音								
2	9	45	中間	第4編 電気	第1章 物質と電気抵抗 第2章 磁場と交流								
	10			第5編 物理学と社会	第1章 エネルギーの利用 物理学が拓く世界								
	11												
	12			期末									
3	1		学年末										
	2												
	3												